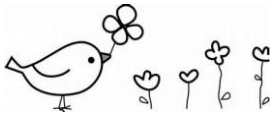

新しいことをワクワクしながら楽しむ力

園長　野中　泉

「新しいことを、ワクワクしながら楽しむ力」今月号の題名にしたこの言葉は、実は今年の２月に、昨年度の５歳児クラスの懇談会にお招きした南小学校谷奥校長先生（当時）がおっしゃって下った言葉です。アトムでは、毎年５歳児の年度末の懇談会に校区にある南小学校の校長先生をお招きして、保護者の小学校入学への心配や不安を聞いていただいたり、細かな質問に答えていただく機会を作らせてもらっているのですが、その場での「小学校に行く前に、これだけは準備しておいた方がいいことってありますか？」という質問に対しての谷奥校長先生の答えがこの言葉でした。

谷奥先生は、こんなふうにお話しされました。「昔は、よく『ひらがな』は読めるようにとか、自分の名前は書けるようにとか言われました。でも、それをさせないといけないと焦ったお父さん、お母さんが必死になって、無理やり字の練習をさせてしまうと、お子さんは小学校に来る頃にはすっかり字の練習が嫌いになっていることも多いんです。私は、今は、お子さんが向こう側からやってくる新しいことをワクワクと楽しめる、そんな力がついていることの方が大事だと思っています。そのためにも、幼児の時代に、たくさんの経験をして、知らないことを知ったり、はじめてのことに挑戦したり、そしてやってみたら、案外できた、楽しかったというそんな経験をしてほしいですね。そしたら、きっと小学校での新しいことにも、ワクワクと向かっていけるのではないでしょうか」

保育園でたくさんの子どもたちと過ごしていますが、子どもは頭と身体と心が一緒に育っていくのだと、日々実感しています。でも、私たち大人はともすると、それを別物に考えがちです。各クラスでの懇談会でも、幼児期の習い事の話題が出ることも少なくないのですが、教材を用意し「知力」だけ注ぎ込んでも、体力をつけようと身体だけ鍛えても、豊かないきいきとした子どもにはなりません。その中心にある心が「かっこいい」「やってみたい」「おもしろい」「すき」と感じ起動してはじめて、頭と身体を巻き込んで育っていくのです。そして、その心を動かす一番の要因は「ともだち」仲間です。思いやりや優しさや正義感も、大人が言葉だけで教えることはできません。自分の予想外の行動をする相手にびっくりしたり、困ったり、時にはぶつかりながら、子どもたちの心は自ら揺れ動き、そして育っていきます。だからこそ、子どもの育ちの場には、いろんな子がいる『群れ』が必要なのです。

改めて、入園、進級おめでとうございます。今年も、新しいなかまを迎える春が来たことをワクワクうれしく思っています。

でも、きっと。はじめて保育園にお子さんを預けるお父さん、お母さんは不安や心配もたくさんですよね。「泣かないかしら」「ごはんはちゃんと食べるかしら？」「ともだちと仲良くできるかな？」。かつて私自身もそんなふうにたくさんの心配と一緒に子どもを保育園に預けた親のひとりです。

残念ながら、園長としてその問いに答えるとなると、「きっと泣きます」「ごはんを食べない日もあるかもしれませんね」「ともだちと、ぜったいけんかもします」となります。ただでさえ、不安いっぱいな人たちの不安を煽るようなことを言わないでほしいと怒られるかもしれません。でも、それは事実です。そして、それが当たり前。だから心配しないで大丈夫と言葉を続けたいと思います。朝のお別れの時にどんなに泣いても、一日中泣いている子はいまだかつて、見たことありません。ごはんを食べないときは、一緒にたくさん悩みましょう。たくさん遊んでお腹がすけばいつかは必ず食べます。けんかをしたら、なんでけんかしたのか、しっかりきいてやりましょう。子どもはけんかをしながら、自分を知り、自分とは違う気持ちを持った「ともだち」の存在に気づきながら、大きくなるのです。

だから、大丈夫です。心配せず、安心してお子さんを預けてお仕事いってらっしゃいと、新しい年も、アトムの窓からみなさんの背中を見送りたいと思っています。